

令和4年司法試験 合格体験記

2021年度修了（既修コース）玉井 康太郎

17期既修の玉井康太郎と申します。

まずは、受験生活を支えてくださった全ての方に、心より感謝申し上げます。司法試験に合格した今、私は人との出会いと環境に恵まれていたのだなぁと改めて実感しております。

さて、唐突ですが私の好きな言葉をひとつ紹介させていただきます。

「Ever tried. Ever failed. No matter. Try again. Fail again. Fail better.」

これは、私の好きなプロテニス選手であるスイスのスタン・ワウリンカ選手が左前腕に刻んでいるタトゥーのフレーズであり、元々は劇作家であるアイルランドのサミュエル・ベケット氏の言葉だそうです。和訳すると、「やることなすことうまくいかなかったとしても気にすることはない。また挑戦し、また失敗すればいい。前よりも上手に失敗すればいい」といった感じでしょうか。

スタン・ワウリンカ選手の魅力を語るには紙幅が足りないため割愛させていただくとし、思い返せば、司法試験合格に向けた道のりは失敗の連続でした。授業中、先生の問いに答えられないことなど日常茶飯事、定期試験では単位認定ぎりぎりの成績を取ることも多く、ゼミなどで提出する起案はいつも添削で真っ赤になって返ってきていました。しかし、その都度失敗の原因を分析し、次の機会に活かすということは常に心掛けていました。そのひとつひとつの進歩はわずかなものだったのかもしれませんが、この積み重ねによって、いつしか司法試験の合格ラインに手が届いていました。また、私は司法試験の本番でも、いくつもの失敗をしてしまいました。それでもこうして合格できたのは、前よりも上手に失敗することができたからなのでしょう。

受験生の皆様も、失敗を恐れる必要はありませんし、何かに失敗したとしても気に病む必要もありません。大事なのは、その後のリカバリーです。失敗の原因を分析し、反省を次の機会に活かす、という作業を根気強く続けていけば、おのずと司法試験の合格が近づいてきます。来年以降も、岡大から多くの合格者が生まれることを願っております。